

6 新たに発生が確認された病害虫(*)、今後の発生に注意を要する病害虫等

農作物名	病害虫名	発生地域	発生確認年月	発生・被害の概要等
かぼちゃ	果実斑点細菌病*	むつ市	平成30年 8月	かぼちゃ果実にいぼ症状が発生した。病斑部から分離した細菌について、かぼちゃ果実および葉への接種、細菌学的性状解析、 <i>Pseudomonas syringae</i> hrpⅢ群菌特異的検出PCRを行った結果、病原細菌 <i>Pseudomonas syringae</i> pv. <i>syringae</i> による「カボチャ果実斑点細菌病」と同定された。 (野菜研究所)
きゅうり	黒点根腐病* (局所発生)	五所川原市	令和元年 5月中下旬	一昨年に炭腐病が発生したきゅうりハウス(4/26定植)において、10株程度に萎れ症状が認められた。萎ちよう株根部の黒粒を検鏡したところ、子のう殻の形成を確認できたことから、黒点根腐病と判断した。 (西北県民局・農林総合研究所)
ピーマン	キュウリモザイクウイルス (発生拡大)	南部町	令和元年 8月	茎葉にえそ症状が発生した。イムノストリップによりキュウリモザイクウイルス(CMV)によるモザイク病と診断した。 (野菜研究所)
りんご	オウトウハダニ (特異発生)	津軽地域	令和元年 6月～7月	津軽地域の慣行防除りんご園(青森市浪岡、弘前市、大鰐町等の約10園地)でみられ、園地の部分的な樹に集中して発生した。 (りんご研究所)
すいか	炭腐病*	つがる市 鱒ヶ沢町 五所川原市	令和元年 7月上旬	4筆合計170aで確認され、圃場全体～半分で萎凋～枯死症状が発生した。罹病根表皮内に直径0.1mm程度で黒色の微小菌核を多数形成する。分離菌株を用いた接種試験により病徴を再現した。 (農林総合研究所)
すいか	ホモプシス 根腐病*	鱒ヶ沢町	令和元年 7月上旬	1筆40aで確認され、圃場全体で萎凋～枯死症状が発生した。罹病根表面に帯状菌糸塊の偽子座を形成するとともに、表皮細胞内にモザイク状に擬似微小菌核を形成する。分離菌株を用いた接種試験により病徴を再現した。 (農林総合研究所)

農作物名	病害虫名	発地域	発生確認年月	発生・被害の概要等
いちご ストック きく	ヒメナガカメムシ (局所発生)	田舎館村 黒石市	令和元年 10月中下旬	持ち込まれた被害株からカメムシ類成虫を確認し、その形態特徴からヒメナガカメムシと同定した。きくやストックでは吸汁による花卉の陥没や汚斑が見られ、いちごでは奇形果が発生した。 (農林総合研究所)
スイートコーン	ツマジロ クサヨトウ*	つがる市	令和元年 10月下旬	未収穫スイートコーンを鋤き込み、再生した野良ばえにおいて、食害を観察し、ツマジロクサヨトウ幼虫を捕獲した。 なお、周辺ほ場を含む小麦や牧草地並びに飼料用とうもろこし等を調査したが、当該ほ場以外での発生は確認されなかった。 (病害虫防除所)
だいち	紫斑病 (QoI剤耐性菌 の発生拡大)	県内全域	平成29年産～ 令和元年産の 大豆被害粒	平成29年～令和元年度の巡回調査で得られた紫斑病被害粒を材料にアゾキシストロビン剤に対する薬剤感受性検定(菌叢ディスク法)を実施した結果、津軽地域及び県南地域の両地域からアゾキシストロビン剤耐性菌が検出された。 (病害虫防除所・農林総合研究所)
小麦	赤かび病 (QoI剤感受性 低下菌の確認)	県内全域	平成29年産～ 令和元年産の 赤かび病穂	平成29年～令和元年度の巡回調査で採穂した赤かび病穂を材料にクレソキシムメチル剤に対する薬剤感受性検定(菌叢ディスク法)を実施した結果、津軽地域及び県南地域の令和元年病穂から10ppm及び100ppm濃度で菌糸生育できる感受性低下菌が検出された。(病害虫防除所)